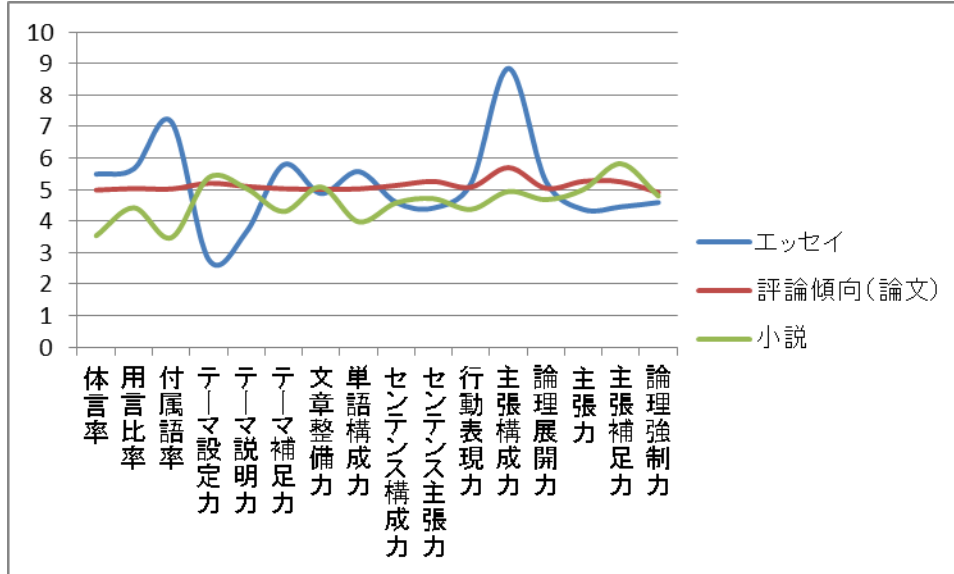


# 様々な測定1

1

## 表現ジャンルの抽出

a



表現ジャンルは文学ジャンルと同じ分類方法であるが、論文、エッセイ、小説の3分類で表し、1文章の結論の有無で区分する。文学ジャンル別に、16項目の分析値が求めた。その分析値を折れ線グラフに表し、折れ線グラフの形状比較をした。その形状は、およそ3つに区分され、その区分が論文、エッセイ、小説形式とした。

《文道》では分析値を求めている。この分析値の基準は、新聞社説、一般論文、評論の数万の文章からターゲットを求めた。これを論文基準としている。指定がない限り、論文基準を分析値基準としている。論文基準、

エッセイ基準、小説基準、または職種別基準など、基準は目的に応じて設定できるようになっている。他の基準も論文基準と比較した値をだしているので、基準が異なっても比較検証ができる。

2

## 表現テクニカル測定

a

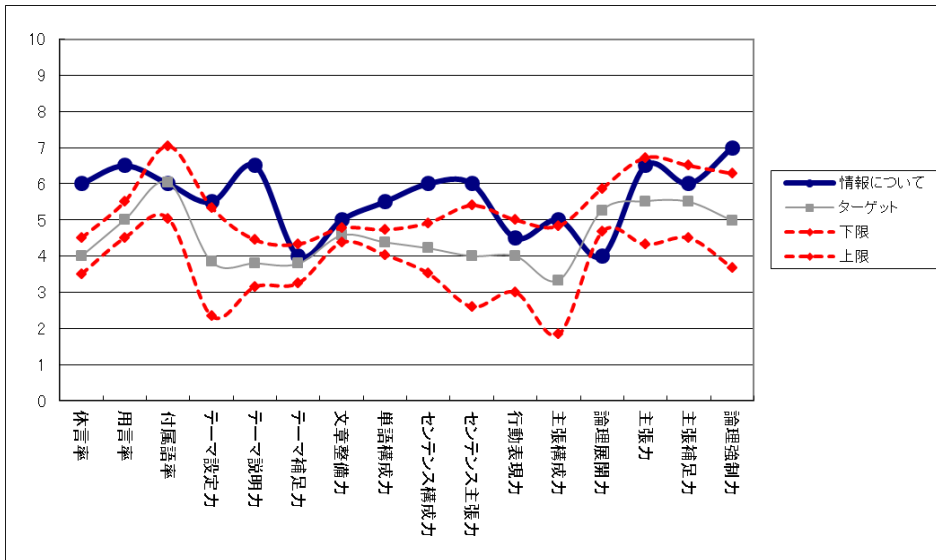
文章構造、文章中の使用単語群構成から、10項目の表現条件が上げられている。体言と用言の構成比、指示語、副詞、接続詞の使い方、論調の統一性、「こと」「もの」の使い方など。さらに、キーワード群の使用適正、1センテンスの文字量の適正などを測定している。

# 様々な測定2

3

## 表現好感度の測定

a



分析値を折れ線グラフ(左グラフ青線)にした。この形状から思考&表現スタイルを抽出する。このグラフを『文章の心電図』としている。折れ線の形状と、分析値範囲から抽出する。折れ線形状は全体で11種類のコードで表され、形状分類だけで14,348,907通りがある。左グラフの赤破線の範囲が好感度が良いとされる範囲である。

2

## 思考&表現スタイルの測定

a

人材パターン項目	右上がり型	右下がり型	平行型	山型	谷型
対人性	惹付型	押し付け型	観察型	積極型	受け身型
論理性	列記型	語り部型	評論型	説明型	対応型
表現性	広がり型	まとまり型	伝達型		
強調性	吐き出し型	命令型	黙考型	カミ型	分散型
思考性	集中型	混迷型	整頓型		
主張性	説得型	論証型	まとめ型	論理型	押し付け型

上図の16項目の分析値が6ブロックに分けられている。

⇒「文章分析<<文道>>の分析方法」を参照

それぞれのブロックのグラフ形状から、左表のように分類され、思考・表現スタイルが分類されている。

# 様々な測定3

4

## 思考力の測定

a

⇒思考力分類は、人文組織工学人材論「人材能力について」を参照

思考力は11の能力で定義されている。その定義に従って分析値より計算される。《文道》での定義は心理学に従っているが、組織によって定義が異なる場合がある。その定義性が明確であれば、組織に応じた分析値が求められる。

### 目的別分析機能

1	入社エントリーの分析	a
2	昇格試験論文評価	a
3	研修効果測定	g
4	研修前効果設計測定	g
5	適性診断	a
6	組織診断	a
7	文章の作者の確定or特定	g
8	相性程度の測定	g
9	価値の抽出	g
10	現象からのニーズ抽出	g

### アンケート分析

1	意識ターゲット・ベクトル抽出	g
2	意識カテゴリ分類	g
3	商品と市場ギャップ抽出	g
4	商品技術カテゴリマップ	g
5	商品群からの意識変化抽出	g
6	商品群相関調査	g
7	商品機能市場伝達率	g
8	意識ターゲット・ベクトル抽出	g
9	表現過不足からの伝達率	g
10	表現戦略要素の抽出	g

a

1文章単体で分析できる項目、複数文章も同じ

g

複数文章で分析できる項目